

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

| | | | | | | |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 51人 | 算数 | 51人 | 理科 | 52人 |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|

| | | | | | | |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第5学年 | 国語 | 59人 | 算数 | 59人 | 理科 | 59人 |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|

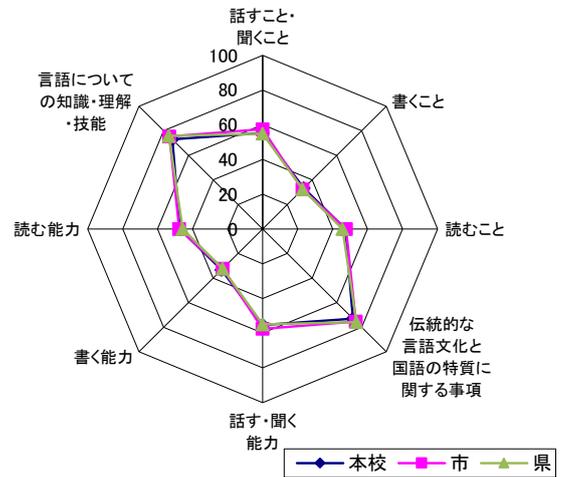
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 55.3 | 57.5 | 54.9 |
| | 書くこと | 33.3 | 32.3 | 32.3 |
| | 読むこと | 47.3 | 47.7 | 45.7 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 73.0 | 75.3 | 75.8 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 55.3 | 57.5 | 54.9 |
| | 書く能力 | 33.3 | 32.3 | 32.3 |
| | 読む能力 | 47.3 | 47.7 | 45.7 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 73.0 | 75.3 | 75.8 |



★指導の工夫と改善

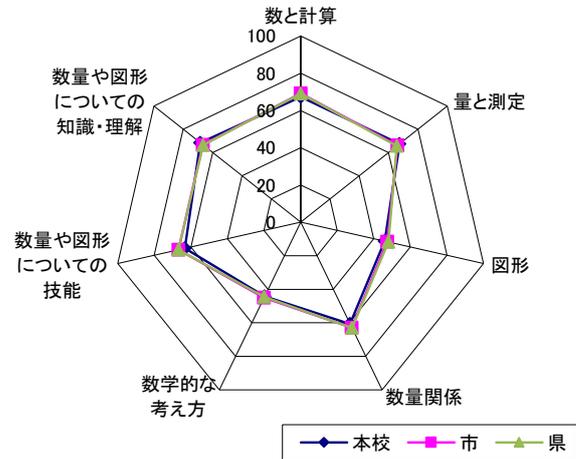
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|---|
| 話すこと・聞くこと | <p>○理由を挙げながら筋道を立てて話すことに関する設問では、正答率が市の平均をやや上回った。</p> <p>●話の中心に気を付けて聞き、自分の意見を述べる記述式の設問では、正答率が市の平均を下回り、課題が見られた。</p> <p>●話すこと・聞くことに関する多くの設問で、無解答率が市の平均を上回った。話すこと・聞くことが苦手であると考えられる。</p> | <p>・様々な授業で行うグループ活動の機会に、自分の考えを発言する機会を多くの児童にもたせる。</p> <p>・日常的にメモを取ることを促し、話や出来事の中心を捉えられるようにする。</p> |
| 書くこと | <p>○メモや友達の意見を基に、報告レポートを書く設問では、正答率が市の平均を上回った。</p> <p>●文章構成を意識し、内容を工夫して報告レポートを書くことに関する設問では、正答率が市の平均を下回った。</p> <p>●書くことに関するすべての設問で、無解答率が市の平均を上回った。記述式での無解答率が高くなった。考えをまとめて文章で表現することが苦手なためと考えられる。</p> | <p>・書くことそのものへの抵抗を減らすため、自主学習を活用した日記指導等、文章を書く活動を実践させる。</p> <p>・日常会話において、主述の関係を崩さない文章を話すことを意識させる。</p> <p>・さまざまな授業でのグループ活動で考えを発言する際に、考えをメモや文章でまとめさせる。</p> |
| 読むこと | <p>○叙述や会話文を基に、登場人物の性格を捉える設問では、正答率が市の平均を上回った。</p> <p>○登場人物同士の関係や物語上の役割を捉える設問では、市の正答率をやや上回った。</p> <p>●文章を読んで考え、まとめたことを発表することに関する記述式の設問では、市の正答率を下回った。</p> | <p>・朝の学習の時間での読書指導や、毎日の音読練習を継続して行う。</p> <p>・物語だけでなく、説明文や随筆など、多様な文章を読む機会が得られるよう、図書の貸し出しや朝の読書の時間に指導をする。</p> |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <p>○漢字の書きに関するすべての設問で、市の平均よりも正答率が高かった。</p> <p>●国語辞典の使い方に関する設問では、市の正答率を大きく下回り、課題が見られた。</p> | <p>・新出漢字の学習において、読み方や送り仮名も意識して学習できるよう、漢字練習の仕方を指導する。</p> <p>・国語の授業に限らず、分からない言葉があればすぐに国語辞典を使うことを奨励し、使い方を身に付けさせる。</p> |
| | | |

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 67.3 | 69.2 | 69.1 |
| | 量と測定 | 67.5 | 66.1 | 65.6 |
| | 図形 | 46.0 | 47.4 | 48.0 |
| | 数量関係 | 60.7 | 62.9 | 63.1 |
| 観点 | 数学的な考え方 | 44.2 | 45.1 | 44.6 |
| | 数量や図形についての技能 | 63.3 | 66.8 | 66.8 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 68.5 | 66.6 | 66.5 |



★指導の工夫と改善

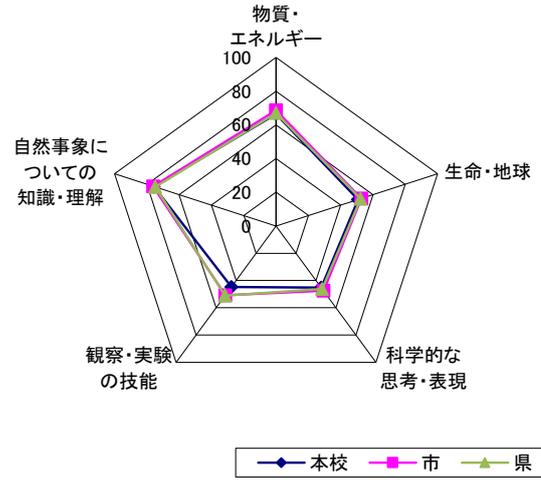
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 数と計算 | <p>○小数と分数の大小関係を不等号を用いて表す設問では、正答率が市の平均を上回り、内容が身に付いていると思われる。</p> <p>●整数－小数(1/10位までの小数)の計算問題では、正答率が市の平均を大きく下回った。</p> <p>●3位数+3位数(繰り上がり), 4位数－4位数(繰り下がり)の正答率が市の平均を下回り、課題が見られる。</p> | <p>・朝の学習の時間や宿題、授業の導入部などを機会に、小数を含めた基礎的な四則の計算問題に継続的に取り組ませる。</p> |
| 量と測定 | <p>○算数の教科書1冊のおよその重さを選択する設問では、正答率が市の平均を大きく上回った。</p> <p>●分と秒の単位で表された時間を秒の単位に換算する設問では、市の正答率を下回った。</p> | <p>・時間、分、秒の関係を復習する機会を設ける。</p> <p>・活動に制限時間を設ける際に、分を秒に換算して表現するなど、学校生活の中で体験的に学習させるようにする。</p> |
| 図形 | <p>○円周上の点Aを通る直径を定規を使って作図する設問では正答率が市の平均を上回った。</p> <p>○円を利用して描いた三角形の名前とその理由を答える設問では、正答率は低いものの市の平均を上回った。</p> <p>●1辺5cmの正三角形を1cm間隔ドット上に作図する設問では、正答率が市の平均を大きく下回り、課題が見られる。</p> | <p>・既習の三角形の描き方を確認する機会を設けるとともに、プリント学習などを通して図形の基礎的事項を復習させる。</p> <p>・三角形に限らず、様々な図形を描く機会を多くもたせる。</p> |
| 数量関係 | <p>○未知の数量を□として、数量関係を表した線分図を選ぶ設問では、正答率が市の平均と同程度であり、内容が概ね身に付いていると思われる。</p> <p>●式が表している意味を読み取り、適した考えを選ぶ設問では、正答率が市の平均を下回った。</p> <p>●棒グラフの目盛りの大きさを読み取る設問では、正答率が市の平均を下回った。</p> | <p>・答えが同じになる式でも、式の表す問題場面が異なることを復習させる。また、必要な文章問題に取り組ませることで、問題場면을きちんと把握したり、適した式を立てたりする力を身に付けさせる。</p> <p>・算数に限らず、授業で扱う様々なグラフを丁寧に読ませる。</p> |
| | | |

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 66.4 | 68.6 | 66.9 |
| | 生命・地球 | 50.8 | 52.8 | 52.4 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 45.2 | 47.4 | 46.2 |
| | 観察・実験の技能 | 44.8 | 50.8 | 51.1 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 75.6 | 76.1 | 74.8 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|----------|--|---|
| 物質・エネルギー | <p>○「電気の通り道」では、回路を作る際の技能に関する設問の正答率が市の平均を10ポイント以上上回った。回路を作る際の導線の安全なつなぎ方は身に付いていると考えられる。</p> <p>●「物の重さ」では、はかりの操作に関する設問の正答率が、市の平均を20ポイント以上下回り、大きな課題が見られる。また、物の体積と重さに関する設問の正答率が市の平均を11ポイント下回り、課題が見られる。</p> | <p>・基礎的な技能が身に付いていなかったはかりの使い方については、他の単元内で復習し、定着を図る。</p> <p>・基礎的内容の理解が不十分だった「物と重さ」の学習は、既習内容を確認させるとともに、関連する単元でも扱い、考え方などを繰り返し指導する。</p> |
| 生命・地球 | <p>○「太陽と地面の様子」での、記録から温度を測定した場所を選び、その理由を説明する設問の正答率が、市の平均を上回った。日光の当たり方と地面の温度の関係をよく理解していると考えられる。</p> <p>●「身近な自然の観察」での、場所ごとに見付けた昆虫の数のグラフからいえることを選択する設問では、正答率が市の平均を17ポイント以上下回った。</p> <p>●「昆虫と自然」での虫眼鏡の使い方と「太陽と地面の様子」での温度計の使い方に関する設問で、ともに正答率が市の平均を大きく下回った。</p> | <p>・基礎的な技能である、虫眼鏡や温度計の使い方については、関連する単元の中で実際に使う機会を設け、体験的に繰り返し復習させる。</p> <p>・グラフからいえることを選択することに関しては、単独のグラフの内容を読み取るほかに、複数のグラフを比較したり総合して考えたりして分かることはないか考えさせるようにし、様々な視点をもてるように促す。</p> |
| | | |

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は98.0%と高い。また、「学校の宿題は自分のためになっている」が92.0%と高い割合となっているので、今後も児童が意欲的に取り組めるよう、宿題の内容や量を検討しながら指導していきたい。

○「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は92.0%と県の平均を上回っている。また、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童は94.0%とこちらも県の平均を上回っており、学習に対して意識が高いことがうかがえる。今後は、その意識を自主学習などの実践に結び付けられるよう指導していきたい。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」と回答した児童は80.0%で平均を上回る結果となった。また、「地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある」と回答した児童は74.0%でこちらも平均を上回る結果となった。これらのことから、社会的事象に興味関心が高い児童が多いことがうかがえる。さらに、「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか。社会」では94.0%と、他の教科と比較すると一番値が高かった。

○「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」と回答した児童は82.0%と県の平均とあまり相違はなかった。また、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」では90.0%と県の平均を上回った。これらの結果から、児童には問題に対して真摯に向き合おうとする姿勢があり、また、それによって得られた成功体験が比較的多かったことがわかる。このような児童の前向きな意識を大切に、今後も励みとなるような支援をしていきたい。

○友人関係において、「人と話すことは楽しい」94.0%、「クラスは発言しやすい雰囲気である」88.0%、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」84.0%といずれも県と市の平均を上回った。これらの結果から、友人関係が良好で、それが授業中の雰囲気作りにも良い効果をもたらしていることがわかる。今後も継続した効果が得られるよう指導を続けていきたい。

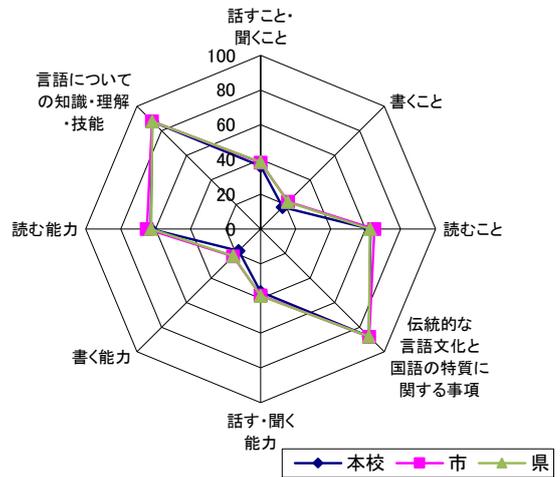
●「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は98.0%と肯定的回答は高いが、「家で、学校の授業の予習をしている」は48.0%、「家で、学校の授業の復習をしている」は58.0%、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」は54.0%といずれも県の平均を下回っており、家庭学習力は身に付いているとは言えない。家庭学習の手引きを再度確認し、懇談会などで保護者にも協力をお願いするなどして、児童が自主的に家庭学習に取り組めるよう努めていきたい。

●「家の人と学校でのできごとについて話をしている」と回答した児童は74.0%と、県と市の平均を10ポイント下回る結果となった。また、「家の人と将来のことについて話すことがある」は58.0%、「家の人と学習について話をしている」は63.6%とどちらも県と市の平均を下回る結果となった。懇談や学年便り等を通して家庭に話題を提供し、親子間のコミュニケーションを図る一助となれるよう工夫をしていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 36.3 | 38.3 | 38.5 |
| | 書くこと | 17.9 | 22.3 | 21.9 |
| | 読むこと | 62.8 | 65.0 | 62.5 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 87.5 | 87.8 | 87.5 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 36.3 | 38.3 | 38.5 |
| | 書く能力 | 17.9 | 22.3 | 21.9 |
| | 読む能力 | 62.8 | 65.0 | 62.5 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 87.5 | 87.8 | 87.5 |



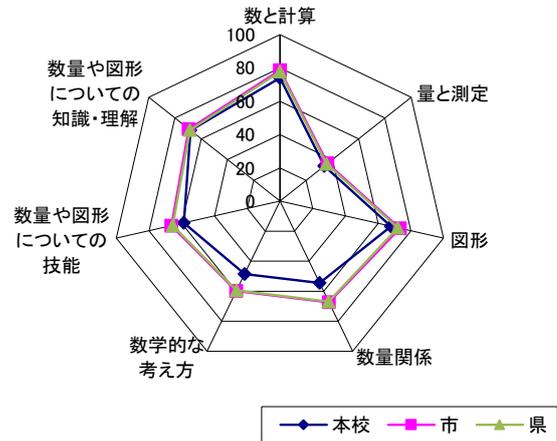
★指導の工夫と改善

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|--|
| 話すこと・聞くこと | <p>○考えの共通点や相違点を整理しながら聞く問題では、県の平均を3.1ポイント上回っていることから、比較的聞くことができています。</p> <p>●司会者の役割を理解し進行する問題では、正答率32.1%で県の平均正答率40.5%と比べて8.4ポイント下回っていることから、課題が見られた。</p> | <p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・授業や様々な活動場面で、意図的・積極的に話し合い活動を取り入れる。また、互いの考えを比較して聞くなど、より深く広く話の内容を聞き入れられるようにする。</p> <p>・国語の授業を始め、グループでの様々な課題解決活動を取り入れる中で、司会者を立てて話し合い活動をする中で、話し合い活動での役割を身に付けさせたい。</p> |
| 書くこと | <p>○文章構成を意識し、内容を工夫してリーフレットを作る選択式の問題では、県平均よりも若干上回っている。</p> <p>●メモや友達の見解を基に、リーフレットのまとめを書く問題では、正答率7.1%で県平均を9.9ポイント下回っている。また、メモの内容に新しい情報を加え、リーフレットに入れるという問題でも県平均を3.3ポイント下回っている。いずれの問題も記述式であることから、書くことへの苦手意識が高いと考えられる。</p> | <p>・朝の学習の時間や、宿題等で短文を書く練習(1行日記等)を実施することで、書く活動に慣れさせていく。</p> <p>・考えを発言する際に、考えをメモや文章でまとめさせたり、学校行事等の感想を書かせたりする。</p> |
| 読むこと | <p>○目的に応じて中心となる語を捉えて読む短答式の問題は県平均より8.1ポイント、書こうとすることの中心を明確にして書く記述式の問題は県平均より5.2ポイントそれぞれ上回っており、朝の読書や読み聞かせ、ブックリレーなどの活動の成果だと考えられる。</p> <p>●中心となる語や文に注目して小見出しを付ける問題は県平均に比べて6.5ポイント下回っており、読み取った内容をまとめることを課題としている児童が多いと考えられる。</p> | <p>・毎日の音読の宿題を継続し、目と耳で文章を読むことを通して、読む力を高めていきたい。</p> <p>・様々な文章に触れられるよう、ブックリレーや朝の読書を通して、読む内容が偏らないように配慮していく。</p> |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <p>○漢字を書くことに関しては、県の平均を若干上回っており、漢字の定着が図られつつあることが分かる。また、慣用句の使い方も県平均を上回っており、昨年度帰りの会等を活用して慣用句に触れていた成果だと考えられる。</p> <p>●修飾と被修飾との関係や、漢字辞典の使い方は県の平均を5ポイント以上下回っており、触れる機会が少ないことが要因と考えられる。</p> | <p>・ドリルを活用して新出漢字の書き順・読み方・部首の確認→新出漢字の練習→ミニテストのサイクルを継続し、漢字の定着を図る。</p> <p>・国語の授業に限らず、分からない言葉や漢字があればすぐに国語辞典・漢字辞典を活用させ、辞典に触れる機会を多く設ける。</p> |
| | | |

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 74.0 | 78.6 | 77.7 |
| | 量と測定 | 33.9 | 36.3 | 35.7 |
| | 図形 | 67.9 | 73.3 | 72.1 |
| | 数量関係 | 54.5 | 67.4 | 66.9 |
| 観点 | 数学的な考え方 | 48.6 | 59.9 | 59.4 |
| | 数量や図形についての技能 | 58.7 | 66.3 | 65.5 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 68.2 | 69.4 | 68.5 |



★指導の工夫と改善

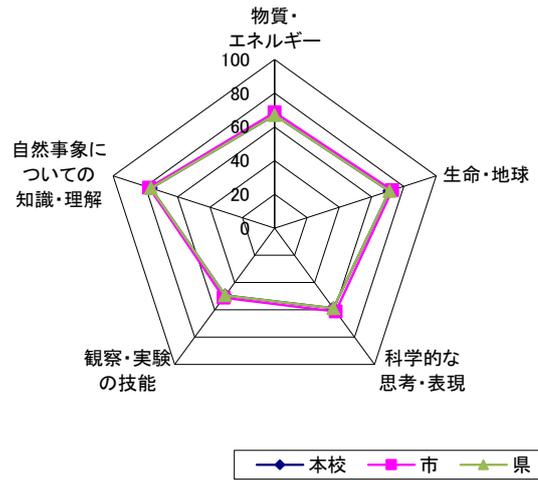
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 数と計算 | <p>平均正答率は他の領域と比べて高い。</p> <p>○分数の計算で帯分数－真分数の計算・小数(小数第一位)－小数(小数第二位)の計算・四捨五入して表された2けたの概数になる数を選ぶ問題はよくできている。</p> <p>●倍で表された数量関係の場面を式に表すことに課題が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、朝の学習などを利用して基本的な計算練習を継続し、基礎基本の定着を図れるようにする。 ・場面をどんな方法で式に表せるか、演算を選択させる学習を多く取り入れ、正しい立式ができるようにする。 ・小数、分数の乗除の意味や計算の仕方を確認し、数直線などを活用して理解できるようにする。 |
| 量と測定 | <p>平均正答率は他の領域と比べて低い。</p> <p>○1㎡の正方形は1cm²の正方形何枚分かを求める問題の正答率は県の正答率より3.7ポイント高い。</p> <p>●図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する問題や式に合った複合図形の面積を求める方法を説明する問題に課題が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・面積や体積などの基本単位について、定義や換算の確認をし、知識の定着が確実にできるようにする。 ・作図問題は、個別指導を行う。 ・習熟度別のクラスで学び合いを活用し、説明の仕方が学べるようにする。 |
| 図形 | <p>○立方体の展開図から、ある面と平行な面を選ぶ問題はよくできている。</p> <p>●与えられた2辺の続きをかいて、平行四辺形を完成させる問題に課題が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・立体模型を用いながら既習事項の確認をさせたり、問題演習を通して学習内容の定着ができるようにする。 |
| 数量関係 | <p>平均正答率は他の領域と比べて低い。</p> <p>○図や表から変わり方を考え、表にあてはまる数を求める問題はよくできている。</p> <p>●基石の並べ方(順番)と基石の個数の関係を式で表す問題は課題が見られる。</p> <p>●折れ線グラフの読み取りに課題が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・図や表やグラフの見方について再度確認をし、規則性を見つけたり、立式できたりする機会を多くもたせる。 ・基礎的な問題を多く解かせ、グラフの読み取りや図のよさを理解できるようにする。 |
| | | |

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 67.0 | 68.6 | 67.0 |
| | 生命・地球 | 71.1 | 72.7 | 71.1 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 58.8 | 61.2 | 58.8 |
| | 観察・実験の技能 | 49.5 | 51.0 | 49.5 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 76.6 | 77.7 | 76.6 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|---|--|
| 物質・エネルギー | <p>○金属の性質を基に温めるとふたが開く理由を聞く問題の正答率は県の平均より8.7ポイント高い。</p> <p>○ものは体積が同じでも種類で重さが違うことが分かることを問う問題はよくできていた。</p> <p>○うでのつくりの図や特徴から筋肉や関節の働きについての問題はよくできていた。</p> <p>○乾電池2個を直列につないだ時の回路図についての問題は県の正答率より8.6ポイント高かった。</p> <p>●水や空気や金属が熱せられたときの温まり方の理解については課題がある。</p> | <p>・「もののあたたまりかた」の学習は、既習内容を確認させるとともに、問題演習を通して知識の定着を図るようにする。</p> |
| 生命・地球 | <p>○人の体のつくりについて、腕のつくりの図や説明から関節のはたらきを問う問題の正答率は県の平均より10.7ポイント高い。</p> <p>●グラフを基に地面の様子と気温の変化について考察することに課題がある。</p> <p>●方位磁針の適切な操作方法や星座の動きをとらえるための適切な記録方法については課題がある。</p> <p>●月の動き方の理解について課題がある。</p> | <p>・「1日の気温の変化」「方位磁針の使い方」「月の動き」については既習事項の復習をして学習内容が定着するようにする。</p> <p>・実験や観察の結果を、文章でまとめたり説明したりする活動を授業で取り入れ、記述する力を身に付けられるようにする。</p> |
| | | |

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」と肯定的回答した児童の割合は85.5%で、県平均を11.8ポイント上回っている。日頃の授業の中で、分からないことは素直に聞こうという雰囲気づくりに努めたことへの成果であると考ええる。今後も学習の疑問をすぐに聞けるような雰囲気づくりに努めたい。

○「誰に対しても思いやりをもって接している」と肯定的回答した児童の割合は94.6%で県平均を6.3ポイント上回っていることから、温かい人間関係を築いている児童が多いことがうかがえる。今後とも、授業での話し合い活動などを通して、児童の温かい人間関係の醸成に努めたい。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答は89.3%で県平均を5ポイント、「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めている」の肯定的回答は91.9%で県平均を9ポイント、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的割合は83.9%で県平均を8.2%とそれぞれ上回っている。このことから、話し合い活動が充実していると感じている児童が多いということがうかがえる。今後とも、話し合い活動を適宜取り入れながら、指導の充実にも努めたい。

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は78.6%で県平均を17ポイント、「家で学校の授業の復習をしている」の肯定的回答は73.2%で県平均を7.7ポイント上回っている。自主学習カードの取り組み等により、自主学習が習慣づいてきていることが分かる。継続して自主学習を積み重ねることができるよう指導していきたい。

●「家の人と将来のことについて話すことがある」と肯定的回答をした児童は53.6%と全体の半分程度で、県平均の65.9%を大きく下回っている。家庭で子どもとの対話の時間を少しでも確保できるよう、家庭に呼びかけながら協力・連携した指導に努めたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答は62.5%で県平均を9.5%、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組みようとしている」の肯定的回答は50.0%で県平均を15.4%とそれぞれ下回っている。上記の成果で記述にあるように、自主学習の積み重ねはできているが、計画的・継続的に学習することを課題としている児童が多いということが分かる。計画性をもち、予め時間を決めて家庭学習ができるよう家庭学習カードの活用法を改善していきたい。

●「毎日の生活が充実している」と肯定的回答をした児童は76.8%で県平均の87.9%を大きく下回っている。目標をもち、達成しようとするのが、生活充実につながると考えられるので、学校生活の中で絶えず小さな目標をもち、達成していくサイクルができるよう指導に努めていきたい。

●国語・社会・理科の各教科において、「学習は好きですか」の問いに対する肯定的割合が、県平均と比べて10ポイント以上下回っている。授業が分かることが好き・楽しいにつながると考えられるので、「分かる授業」を展開できるように日々の授業を工夫していきたい。

宇都宮市立宮の原小学校（第4・5学年共通）

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---------|--|---------------------------------------|
| 基礎基本の定着 | 朝の学習タイムを活用して漢字と計算の基本の定着を図ったり、家庭学習で音読、漢字、計算をバランスよく課題にしたりして繰り返し指導している。 | 漢字の読み書き問題の平均正答率は、4年生、5年生ともに県の平均を上回った。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|-------------------------------------|----------------------|---|
| 4年生では棒グラフ、5年生では折れ線グラフの読み取りに課題が見られた。 | 数直線やグラフの読み方の指導を工夫する。 | 低学年から、数直線やものさしの目盛りの読み方を丁寧に指導し、一目盛りの大きさを正しくとらえることができるようにする。 グラフの読み方を再確認し、基本的な問題から段階的に継続して取り組ませて定着を図る。 算数以外の学習や生活の場面でもグラフに触れ、それぞれのグラフのよさや特徴を理解しながら活用できるようにしていく。 |